

## 1 京都大学大学院農学研究科附属農場の概要

所在地	大阪府高槻市八丁畷町
所有者	京都大学
開設	昭和3年
面積	約15ha
現況	農場本館、別館、職員宿舎等の施設や、その他果樹園、水田等がある。平成20年度の延べ利用学生は約6,200人。敷地の大部分において、弥生時代の環濠集落遺跡（安満遺跡）が存在。

## 2 木津中央地区（ニュータウン事業）の概要

関西文化学術研究都市において、文化学術研究機能を備えた新市街地の形成と良好な居住環境を有する住宅・宅地の供給を行うことを目的に、まちづくりを推進中。

事業の名称	相楽都市計画事業 木津中央特定土地区画整理事業
所在地	京都府木津川市 JR関西本線 木津駅まで徒歩約15分 京奈和自動車道木津ICまで1.5km
施行者	独立行政法人都市再生機構
施行面積	245.7ha
計画人口・計画戸数	11,000人／3,800戸
事業期間	平成8年度～平成30年度（平成25年度末換地処分予定）
事業の進捗状況等	一次造成工事着手面積 約41%（H21.8末） 平成24年春第一期使用収益開始予定

## 3 防災公園街区整備事業（都市再生事業）の概要

災害に対し脆弱な構造となっている既成市街地において、防災機能の強化を図ることを目的として、地方公共団体の要請に基づき、用地を取得するとともに防災公園と周辺市街地の整備改善を一体的に実施する事業。

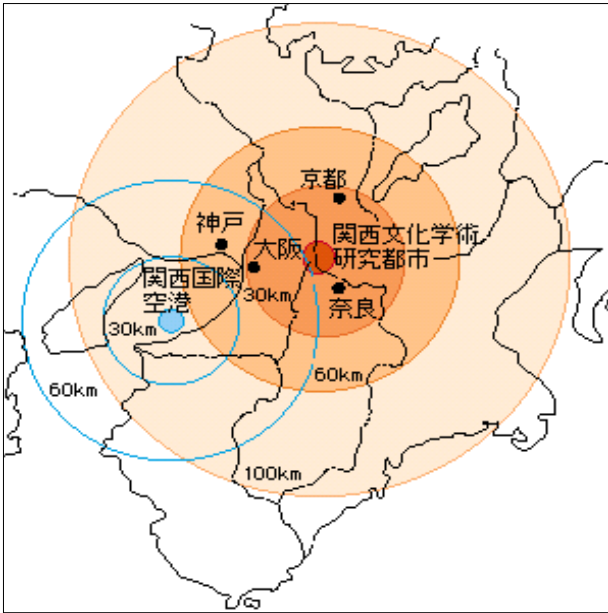
### ◇対象事業

当機構が一体的に行う以下の事業（①かつ②）

- ①地方公共団体が策定する防災に関する計画において、避難地若しくは防災活動拠点として位置付けられている（位置付けられることが確実であるものを含む）概ね1ha以上の防災公園の整備で、事業用地の相当部分を防災公園として整備するもの。
- ②公園の整備と併せて行われるべき市街地の整備改善を図るための事業

### ◇事業の流れ

当機構は、地方公共団体からの事業要請を受けたのち地区の決定を行い、用地を取得し、整備後に地方公共団体へ引渡しを行う。



関西文化学術研究都市位置図

○位置

京都府、大阪府、奈良県にまたがる木津川左岸の京阪奈丘陵地域

京都府	京田辺市、木津川市、精華町
大阪府	枚方市、四條畷市、交野市
奈良県	奈良市、生駒市

(大阪、京都都心から約30km)

○規模

・関西文化学術研究都市の規模

計画面積	約15,000ha
人口	計画 約41万人
	(H21.4現在 約23.6万人)

・うち文化学術研究地区(12ヶ所)の規模

計画面積	約3,600ha
人口	計画 約21万人
	(H21.4現在 約8.4万人)

1. 建設の理念

関西文化学術研究都市の建設は、関西文化学術研究都市建設促進法(昭和62年法律第72号)に基づき、文化、学術及び研究の中心となるべき都市を建設し、もって我が国及び世界の文化等の発展並びに国民経済の発展に資することを目的としている。

その建設にあたっては、近畿圏において培われてきた豊かな文化・学術・研究の蓄積を生かしながら、次の三点を理念として取り組む。

- ① 文化・学術・研究の新たな展開の拠点づくり
- ② 我が国及び世界の文化・学術・研究の発展及び国民経済の発展への寄与
- ③ 未来を拓く知の創造都市の形成

2. 建設の基本的な考え方

産・学・官の協力を基調とし、民間活力を最大限に活用して都市の建設を進める。

また、産・学・官の連携を強化するとともに、文化・学術・研究における国際的、学際的、業際的な交流を進める。

3. 主な経緯



## ■ 関西文化学術研究都市の進捗状況

### ① 人口（平成21年4月1日現在）

学研都市全体	計	約23.6万人（58%）	（計画人口41万人）
〔内〕	文化学術研究地区	約8.4万人（40%）	（計画人口21万人）
	UR事業地区	約6.7万人（52%）	（計画人口13万人）

### ② 基盤整備進捗状況（平成21年4月1日現在）

文化学術研究地区3, 600haのうち	〔内〕UR事業地区1, 536ha	
・概成：約1,916ha（53%）		約1,226ha（80%）
・事業中：約448ha（12%）		約310ha（20%）

### ③ 土地区画整理事業等の宅地造成（平成21年4月1日現在）

#### 1) 概成

平城、相楽、田原、祝園、木津南地区	（都市再生機構）
田辺地区	（同志社大学）
木津川台	（近鉄・近鉄不動産）
氷室・津田地区（研究施設区域）	（大阪府住宅供給公社）
氷室・津田地区（住宅地開発区域）	（大阪府住宅供給公社）
高山地区〔I工区〕	（奈良県土地開発公社）
精華台	（京阪・三井不動産・野村不動産）

#### 2) 事業中

木津中央地区、南田辺北地区	（都市再生機構）
---------------	----------

#### 3) 事業中止

木津北・東地区	（都市再生機構）
高山地区〔II工区〕	（都市再生機構）

### ④ インフラ

平成12年4月 「京奈和自動車道（城陽－木津IC間）」 開通

平成18年3月 「近鉄けいはんな線（京阪奈新線）」 開通

### ⑤ 立地施設（平成21年5月末現在）

#### 1) 立地状況

・ 開設済 114施設

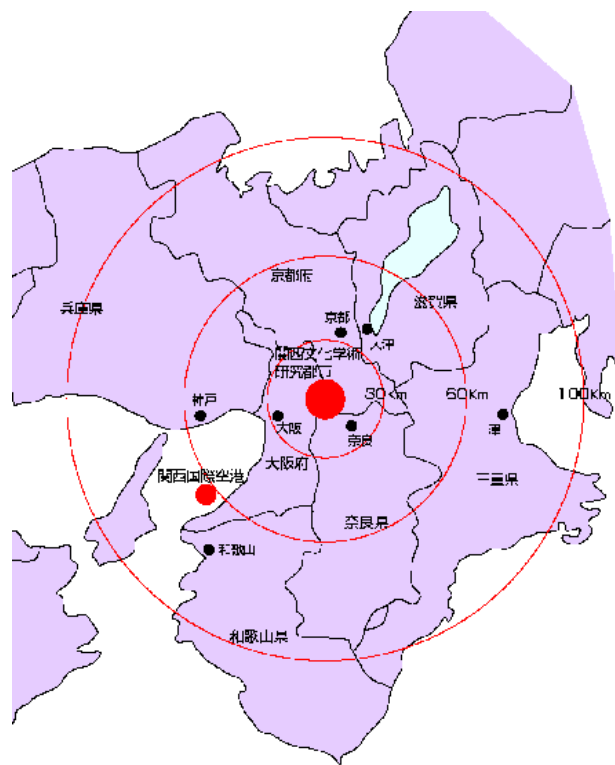
（※その他、整備中又は計画が13施設）

2) 主な立地施設

(平成21年5月末現在)

	設 名	文化学術研究地区	状 況
開 設 済	関西外国語大学短期大学部 (穂谷学舎)	氷室・津田地区	昭和 59 年 4 月開校
	同志社大学(京田辺校地)	田辺地区	昭和 61 年 4 月開校
	同志社女子大学 (京田辺キャンパス)	田辺地区	昭和 61 年 4 月開校
	大阪電気通信大学 (四條畷学舎)	清滝・室池地区	昭和 62 年 10 月開校
	ウェルサンピア京都	南田辺・狛田地区	昭和 63 年 10 月開設
	(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)	精華・西木津地区	平成元年4月開設
	ハイタッチ・リサーチパーク (現在 10 施設)	平城・相楽地区	平成 2 年 9 月開設
	(株)島津製作所 基盤技術研究所(けいはんな)	精華・西木津地区	平成 3 年 7 月開設
	NTT コミュニケーション科学基礎研究所	精華・西木津地区	平成 3 年 7 月開設
	文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」	精華・西木津地区	平成元年8月(前)けいはんな設立 平成 5 年 4 月開設
	奈良先端科学技術大学院大学 [NAIST]	高山地区	平成 3 年 10 月開学 平成 5 年 4 月学生受入開始
	研究交流施設「高山サイエンスプラザ」 (奈良先端科学技術大学院大学支援財団)	高山地区	平成 3 年 7 月財団設立 平成 5 年 10 月開設
	(財)国際高等研究所 [IIAS]	精華・西木津地区	平成 5 年 10 月開設
	(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)	精華・西木津地区	平成 5 年 11 月開設
	パナソニック(株)先端技術研究所	精華・西木津地区	平成 6 年 4 月開設
	大阪大学大学院工学研究科自由電子レーザー 研究施設	氷室・津田地区	平成 6 年 5 月開設
	東京海上日動火災保険(株)西日本研修センター ならやま研究パーク (現在 8 施設)	田原地区 平城・相楽地区	平成 6 年 6 月開設 平成 6 年 6 月開設
	京セラ(株)中央研究所	精華・西木津地区	平成 7 年 7 月開設
	研究交流施設「津田サイエンスコア」	氷室・津田地区	平成 7 年 10 月開設
	参天製薬(株)奈良研究開発センター	高山地区	平成 8 年 4 月開設
	関西外国語大学国際言語学部	氷室・津田地区	平成 8 年 4 月開設
	京都府農林水産技術センター 生物資源研究 センター	南田辺・狛田地区	平成 9 年 4 月開設
	京都府立大学生命環境学部附属農場	南田辺・狛田地区	平成 9 年 4 月開設
	特別史跡 平城宮跡 朱雀門	平城宮跡地区	平成 10 年 2 月開設
	日本電気(株)関西研究所	高山地区	平成 10 年 4 月開設
	(独)日本原子力研究開発機構 [JAEA] 関西光科学研究所	木津地区	平成 11 年 7 月開設
	(株)CSKホールディングス 大川センター	精華・西木津地区	平成 13 年 4 月開設
	国立国会図書館関西館	精華・西木津地区	平成 14 年 10 月開設
	私のしごと館	精華・西木津地区	平成 15 年 3 月開設
	オムロン(株)京阪奈イノベーションセンタ	精華・西木津地区	平成 15 年 5 月開設
	けいはんなベンチャービレッジ (現在 5 施設)	精華・西木津地区	平成 18 年 3 月開設
	ロート製薬(株)ロートリサーチビレッジ京都	木津地区	平成 18 年 5 月開設
同志社大学学研都市キャンパス	精華・西木津地区	平成 18 年 11 月開設	
D-egg(同志社大学連携型起業家育成施設)	田辺地区	平成 18 年 12 月開設	
(独)情報通信研究機構 [NICT] けいはんな研究所	精華・西木津地区	平成 12 年 7 月開設 平成 20 年 4 月統合新設	
他 民間研究所等	58 施設		
計		114	施設

※網掛部は、都市機構施行地区内立地施設



### 学研都市の概要

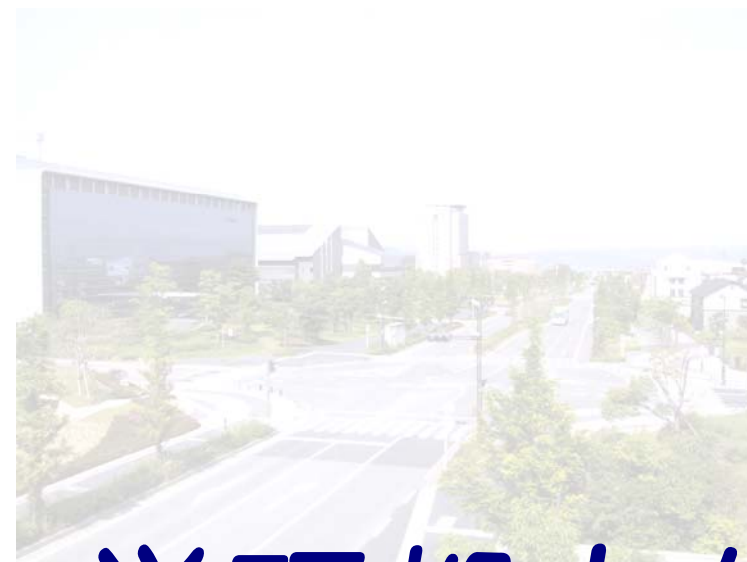
関西文化学術研究都市は、1978年の奥田懇談会により提唱され、1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の施行以来、豊かな歴史と自然に恵まれ、大阪府・京都府・奈良県の3府県にまたがる京阪奈丘陵において、産学官の連携のもとに国家プロジェクトとして事業が進められてきました。特徴のある12の文化学術研究地区（計3,600ha）が分散・ネットワーク型に配置・計画され、現在約45%が整備され、人口は22万人、進出機関は250に達しているところです。

1996年の「セカンド・ステージ・プラン」の策定から既に10年が経過し、学研都市は今、新たな段階（サード・ステージ）を迎えようとしています。そこで、策定委員会により平成18年3月に「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」がとりまとめられました。今後は本プランにもとづく多様な取り組みが期待されます。

国土交通省 都市・地域整備局 関西文化学術研究都市建設推進室

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/daikan/index.html>

電話 03-5253-8402 FAX 03-5253-1587



# 学研都市が変わる！



## ～学研都市の新たな展開を目指して～

「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」の概要

## 「サード・ステージ・プラン」の策定について

セカンド・ステージ・プランの策定から10年、この間、世界経済の競争の激化や地球環境問題の深刻化、食糧危機やエネルギー危機などが急激に現実味を帯びてきており、我が国の文化学術研究の拠点としての学研都市の果たす役割が一層重要になってきています。サード・ステージ・プランは、このような背景のもと、学研都市の今後10年の取り組みの方向性を示すものです。

サード・ステージ・プランの6つのポイントを以下に示します。

### (1) 総力を結集した「持続可能社会のための科学」への取り組み ～全国に先駆けての展開～

世界経済の競争の激化や地球環境問題の深刻化などに対し、学研都市の重要な研究分野として「持続可能社会のための科学」を積極的に位置付ける。

「けいはんな 持続可能社会のための科学推進会議」ともいべき学際的な研究交流の場を設け、これまでの学研都市の多様な知の集積を活かして、人文・社会科学分野と自然科学分野との総力を結集して推進していく。

### (2) 国際研究開発拠点としての新産業の創出！ ～産業化・広域化・国際化の展開～

我が国が世界に冠たる科学技術創造立国として今後も世界の文化学術研究の発展に寄与していくためにも、産学官連携の推進体制の強化、研究開発型産業施設や生産施設の立地促進等を図り、学研都市が原動力となって新産業創出に取り組んでいく。

それとともに、国際研究開発拠点としての海外に向けた戦略体制の構築、国際化に向けた都市環境整備の推進等を図り、アジアをはじめとした世界に開かれた都市を目指していく。

### (3) 文化拠点の高度化と新たな文化学術研究の推進！ ～文化学術研究と国際貢献の推進～

国会図書館関西館二期事業、平城遷都1300年記念事業の展開による文化拠点の高度化や施設の整備充実または各施設間の連携により、新たな文化学術研究を推進していく。また、これまで文化遺産に関する保存修復、研究活動が積極的に展開されている実績を活かし、引き続き文化遺産の保存修復などによる国際的な活動、国際貢献を推進していく。



我が国のアジア関係情報やデジタルアーカイブの拠点として期待される「国立国会図書館関西館」



2010年開催の平城遷都1300年記念事業における復原された「大極殿正殿」前のイメージ(平城遷都1300年記念事業協会提供)

### (4) 未来を拓く知の創造都市の実現！ ～市民や研究者による都市活動の展開、持続可能なまちづくりの実現～

我が国初の創造的未來対応型都市として、未来を拓く知の創造都市の実現を目指す。

その目指すべき都市像とは、「市民や研究者の知による、生産や文化が創出され新しい価値が創造されるとともに、持続可能社会での住まい方や生き方が創造・発信される都市」である。またその実現に向けて、「実証実験」の展開、「体験し学ぶ新たな観光」等の推進といった学研都市のフィールドを活用した創造の場の形成を図る。



小型車両ロボットI-CW(ユーザ搭乗型移動端末)による公道走行実験(2005年11月24日)



「体験し学ぶ新たな観光」の推進に向けて期待される体験型学習施設「私のしごと館」

### (5) 学研都市の活動を支える基盤整備の促進！ ～サード・ステージにおけるスピードアップ～

サード・ステージにおいて、学研都市における学術研究活動や市民活動を支えるため、「関西国際空港へ1時間、京都・大阪・奈良へ30分」のアクセスの実現にむけた関連道路整備や土地区画整理事業等による面的な基盤整備を推進し、併せて鉄道・バス等の公共交通サービスの充実・強化を図る。

### (6) 「高度な都市運営」に向けて、大きくステップアップ！ ～「都市の建設」から「建設推進・高度な都市運営」へ体制の強化～

学研都市は、「都市の建設段階」(セカンド・ステージ)から、現在「建設推進・高度な都市運営の段階」(サード・ステージ)を迎えつつあり、今後は、関西全体で学研都市を支え・推進する体制づくり、学研都市を一体化した新たな運営組織づくり、学研都市全体の産学官連携組織の構築を図る。

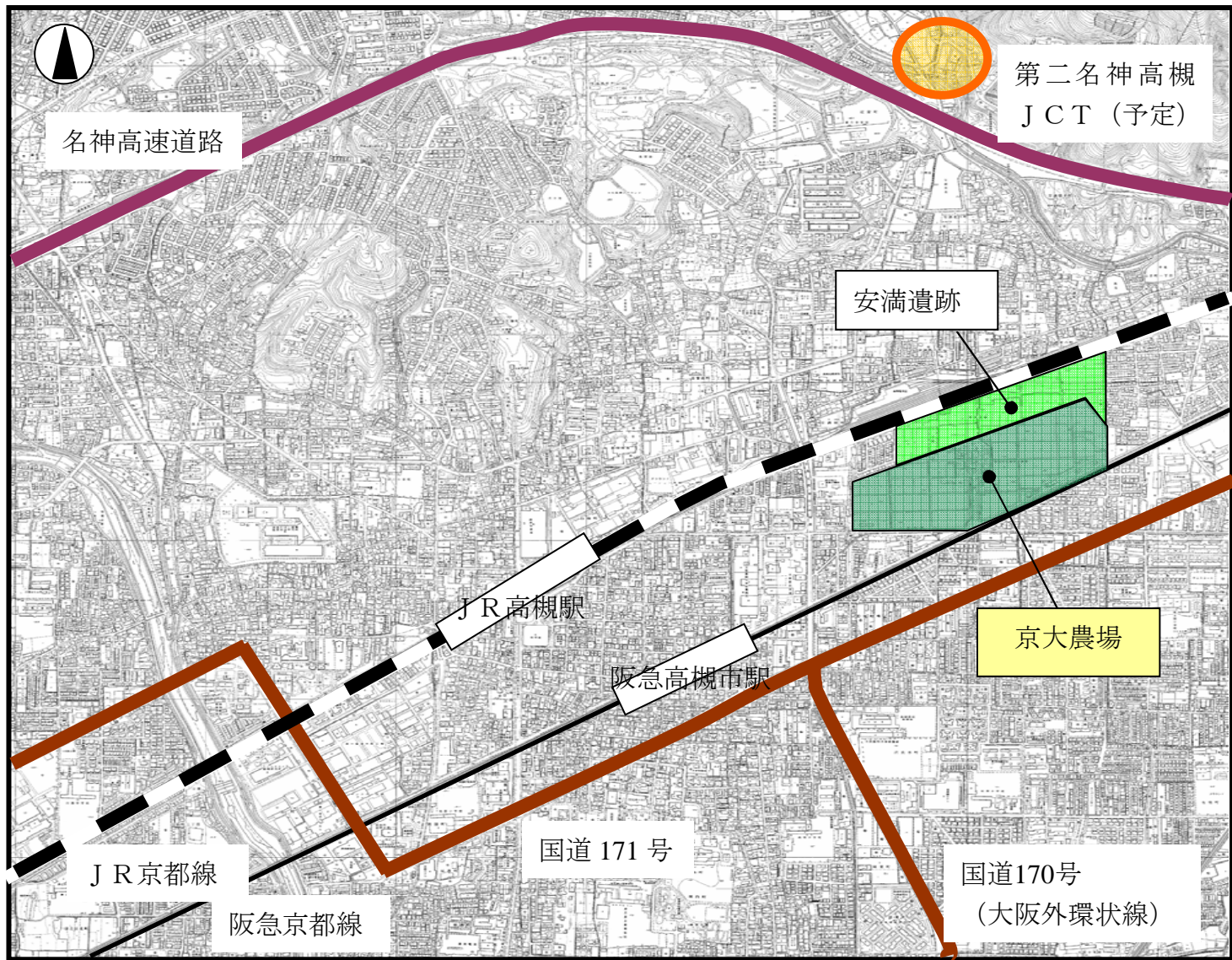


学研都市と大阪方面とのアクセス向上のため、全線供用が求められる第二京阪道路



学研都市の新たな都市運営展開の拠点となる「けいはんなプラザ」

# 参考4 京都大学大学院農学研究科附属農場の位置図

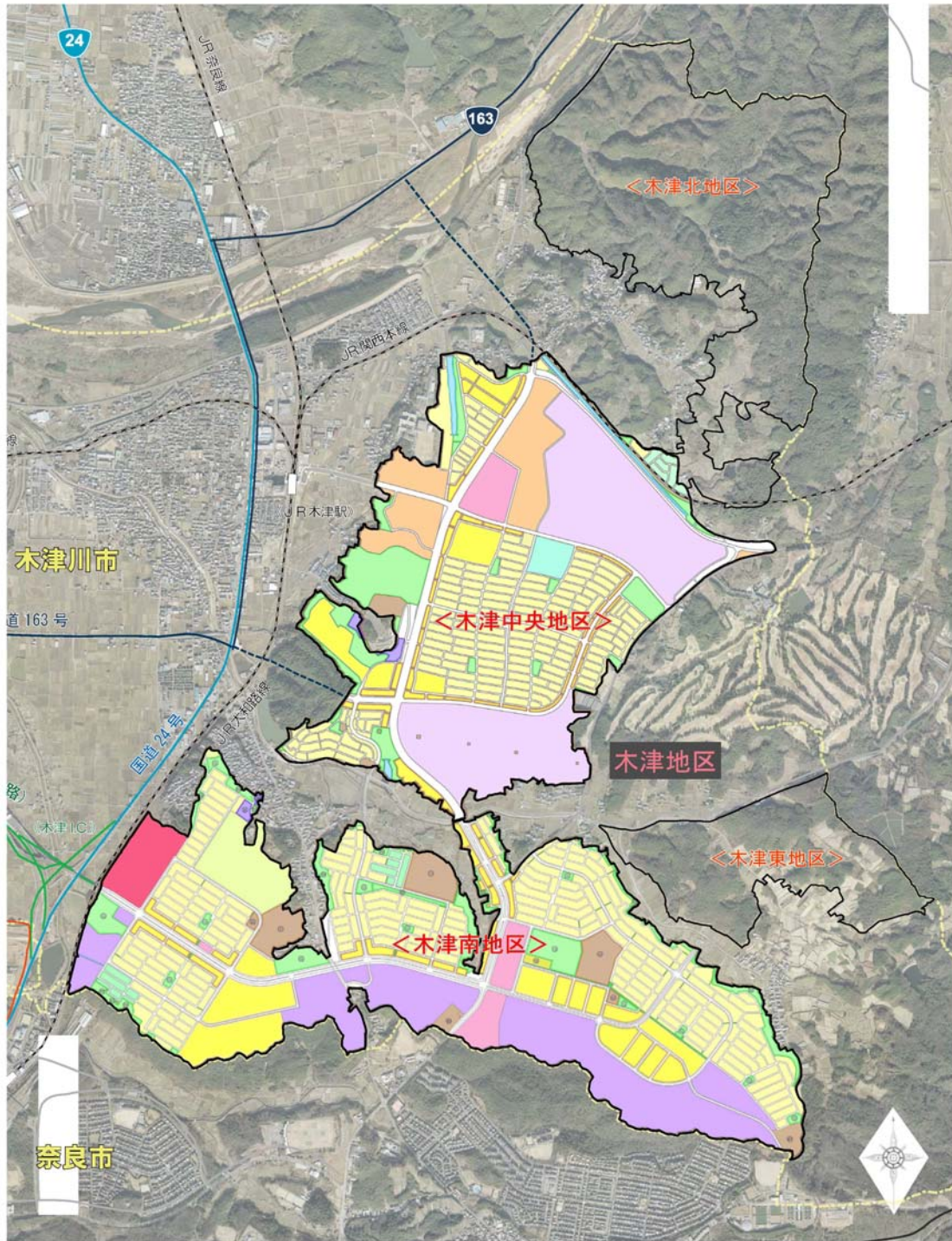


参考5 京都大学大学院農学研究科附属農場の航空写真





## 参考6 木津中央地区の位置図・土地利用計画図



## 参考7 木津中央地区の航空写真



参考8 広域位置図（京大高槻農場+木津中央地区）

